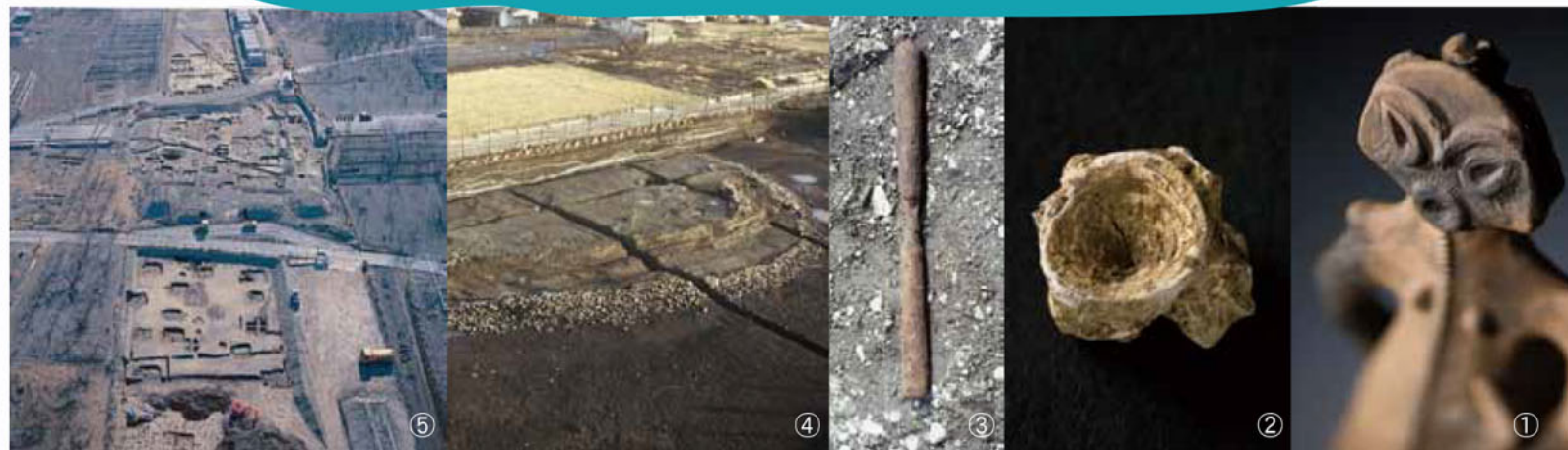
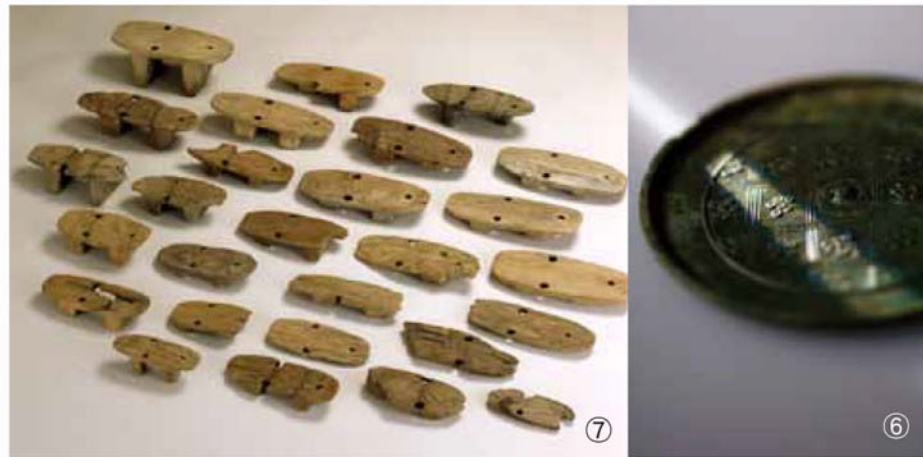


- ①円錐形土偶 縄文時代 鋳物師屋遺跡 ・世界で紹介された日本文化の顔！
- ②タイの骨 縄文時代 百々・上八田遺跡 ・4000年前海との交流を伝える
- ③竪杵（たてぎね） 弥生時代 油田遺跡 ・県内最古の木製農具
- ④円墳 古墳時代 大師東丹保遺跡Ⅳ区 ・低地からも古墳が出現
- ⑤百々遺跡 平安時代・中世 ・中央政府と関係した勢力が八田牧を開発？
- ⑥和鏡 平安時代 野牛島・西ノ久保遺跡 ・平安時代終りの墓から出土！
- ⑦下駄 鎌倉時代 大師東丹保遺跡 ・中世の姿を伝える豊富な木製品



南アルプスヒストリーサプライズ 一片の遺物が紡ぐ物語

山梨県考古学協会地域大会in南アルプス市
 ・市・県の歴史が動いたその瞬間を写真や本物の遺物を交えてリレートーク。
 開催日 平成26年11月15日(土)
 内容 第1部 午後1時発 市内遺跡バスツアー(要申込)
 Aコース:石積出土体験発掘→榊形堤防ほか
 Bコース:椿城分布調査→甲西バイパス下の遺跡ほか
 第2部 午後3時～ あん時歴史は動いた(申込不要)
 集合・会場 ふるさと文化伝承館
 お問い合わせ 文化財課 282-7269 / 土日 ふるさと文化伝承館 282-7408

ふるさと文化伝承館ミニ展示
 白根飯野小学校6年生が調べた地域学習の成果を展示します。子どもたちのアイデア満載です。
 期間 9月19日(金)～11月5日(水)
 お問い合わせ ふるさと文化伝承館 282-7408



製塩土器 奈良・平安時代 向第一遺跡

御勅使川扇状地と釜無川による低湿地が広がる南アルプス市。古くから洪水が多く、同時に旱魃地帯でもあったため、およそ25年前までは楯形地区の台地周辺以外は遺跡が少ないと考えられ、地域の歴史を知る手がかりは限られたものにとどまっていました。

しかし甲西バイパス建設を機に、約25年にわたる発掘調査を積み重ねた結果、それまで予想だにできなかった数々の遺跡が発見され、地域の歴史はその都度塗り変えられてきたのです。例えば甲西地区大師東丹保遺跡では、鎌倉時代の有力者の住居と周囲の水田跡とともに、下駄や箸、扇子などの日用品やマツリに使われる木製品などが発見され、中世の人々が活き活きと暮らす姿が浮かびあがってきました。調査前にはまったく遺跡が発見されていなかった白根地区の百々では、平安時代の竪穴住居跡が250軒以上、ウシやウマの骨も100頭以上出土し、八田牧とよばれる牧場の存在が裏付けられました(百々遺跡)。こうした調査結果は、市のみならず山梨県の歴史をも変えたのです。

数ある出土遺物の中で、小さな土器のかけらも地域の歴史を伝える大事な役割を持っています。2000年に若草地区十日市場の向第一遺跡で発見されたいくつかの土器片は、砂が混じり造りが荒く、報告書に掲載された後は展示されることもなく収蔵庫に保管されていました。ところが7年後、山梨県考古学協会が古代の塩の流通を探るために「塩の考古学」と題したシンポジウムを開催した際、向第一遺跡で発見された土器の特徴が近県で発見された塩を運ぶための製塩土器とぴったり合うことに、調査担当者が気づいたのです。それが山梨で初めての製塩土器の発見でした。その後、県内各地で見直しが行われ、いくつもの製塩土器が再発見されました。

現在では、帝京大学文化財研究所を中心にこの製塩土器の研究が進められ、特に南アルプス市の鋳物師屋遺跡で出土数が多いことがわかっています。この地がまさに海と山とを結び、人々が「行き交う」場所だったことが明らかに becoming つつあります。小さな土器片が県内外の人・モノの移動を教えてくれたのです。

現代の私たちが暮らすこの風土は、かつて市内を行き交った様々な地域の人々によって運ばれたモノ・文化を地元のそれらと和えて作り上げてきたものです。多くの地域と交流を重ねた豊かな歴史があることは、今ではあたりまえのことになってきましたが、この地の歴史には、まだ新たなサプライズがあるはず。それはもしかしたら、これまで見過ごしていたものの中に眠っているのかもしれない。

